

反TPP進めると倒閣 落とし所は

★TPP参加にかじを切る首相・野田佳彦の包囲網はTPP阻止のラインを越え、抜き差しならない状況になりつつある。

新党日本代表・田中康夫が仕掛けた超党派による「TPP交渉協議への参加表明」を11月12日からのAPCCの場で日本政府は行うべきでないとする国会決議の実現に関する呼び掛けの署名数は過半数に肉薄した。
★しかし、民主党内や自民党内から、この勢いに危惧する声も上がり始めた。「このままこ

の決議を進めたら野田内閣の倒閣につながる」(民主党中堅議員)。「寸止めで落としどころ

を追い詰めれば、先行きの見えぬ政局に突入することへの不安が与野党の頭にちらつく。無



略称 野田の総辞職、代表選挙の選択もあるだろう。「一番の不安はこのまま政局が流動化すれば、震災復興の道筋をつける第3次補正予算も吹っ飛ばす。この後消費税議論というもうひとつ山抱える野田や財務省も大変だが、震災被災者たちが中ぶらりんになることも許されない」(東

を作らないと、解散総選挙になりかねない。このいうときはハブニングが起こりやすい。うちは解散を訴えているものの、今すぐとなる準備出来ていない」(自民党ベテラン議員)。

北出身自民党議員)。
★別の形で落としどころを探る議員もいる。「米国には普大間、TPP、牛肉輸入拡大の中でまず牛肉輸入緩和を材料にTPPを先送りすべき」(民主党ベテラン議員)という声や「TPP参加の条件に対して日本政府も京都議定書の署名を米国に迫り、外交の駆け引きをすべきだ」(自民党ベテラン議員)などの声も出始めた。最大の問題は首相自体がこの問題が政局化する危険性をどこまで理解しているかだ。それとも一票の格差問題を抱えながら、解散に打って出る勇気があるのか。(K)